

だいち通信 VOL. 65



〒080-0016 帯広市西6条南6丁目3番地ソネビル2F TEL (0155)-24-8989 FAX(0155)-20-7367
E-mail shien-daichi@ymail.plala.or.jp URL http://www.keisei-kai.jp/daichi/

ご挨拶

昨年度はコロナウイルス感染症による度重なる活動の自粛がありましたが、新たな活動のスタイルを模索させることができた年でもありました。集合研修が難しくれば我々が出向くことに方針をシフトチェンジしたことにより、より多くの皆様より地域課題やニーズをお聞きし改めて確認できたことが大きな成果となりました。集約した貴重なご意見をもとに、今年度は1つずつ課題の解決にあたってまいります。今年度は改めて「地域作り」を目標に、皆様の力を借りながらそれぞれの地域に合わせた就労支援の在り方を検討しながら活動を行いますので、よろしくご挨拶申し上げます。

＜令和3年度の重点目標＞

- ① 就労相談をきっかけとした、福祉サービス・行政等関係機関・相談支援・当センターの機能的な連携を見える化することを目指します。
- ② 特に就労移行支援事業所を中心とした就労系障がい福祉サービス事業所との連携のもと、就労準備ができた方の把握と、マッチング・定着後の支援プロセスの共有を行います。
- ③ 企業プロジェクト・移行支援連絡会などの活動を地域の企業団体や行政機関をまきこんだ活動に発展させることにより、効果的な障がい者雇用に対する理解や普及啓発に努めます。
- ④ 昨年度行った「地域診断」をもとに、各市町村の抱える課題について、波及できるモデル作りを目指します。

主任就業支援担当者 佐藤尚美

令和2年度 実績報告

～毎年、厚生労働省と北海道に報告している年間の実績数をお知らせします～

昨年度の新規登録者は89名となり、前年度の新規登録者数（134名）より少ない数となりました。ハローワークが公表している求職者数及び就職者数の推移と同じく、先の見えない不安などによる求職者のモチベーションの低下が関係していると感じます。その様な中、相談件数は前年度を大きく上回り、不安定な社会情勢やストレスのはげ口が持たなくなってしまう結果、一人あたりの相談件数が増えている状況です。昨年度新たな報告項目となった「一般就労に向けたアセスメント数」に関しては、職場実習の活動を中心に、福祉サービス事業所を始めとした関係各所と共同で行っている状況が反映しています。これまで当センターが注力してまいりました「関係機関との連携」が形となって現れてきているものと感じます。

支援対象登録者数	身体	知的	精神	その他	合計
	17 (2)	224 (54)	145 (21)	61 (12)	447
その他内訳	発達	難病	高次脳	その他	(89)
	47 (10)	0	3	11 (2)	

※ () 新規登録者数

相談支援件数	身体	知的	精神	その他	合計
	90	3,675	3,399	1,063	8,227
その他内訳	発達	難病	高次脳	その他	
	884	0	35	144	

就職件数	身体	知的	精神	その他	合計
	3	40	11	3	57
その他内訳	発達	難病	高次脳	その他	
	3	0	0	0	

職場実習 斡旋件数	身体	知的	精神	その他	合計
	0	41	18	5	64
その他内訳	発達	難病	高次脳	その他	
	5	0	0	0	

一般就労に向けたアセスメント	身体	知的	精神	その他	合計
	0	44	25	8	77

『新資源マップ』の更新もありがとうございました！！

昨年度、就労系障がい福祉サービス（就労移行・A型・B型）地域活動支援センターの皆様へ新資源マップの作成のご協力依頼をさせていただきました。新規事業所も含め半数以上の事業所が更新をして下さり、感謝いたします。地域の情報を見る化し、相談者の方や関係機関の皆様にご活用いただけるよう、引き続き更新のお声掛けをさせていただきます。

新入社員の挨拶

福山 雫

はじめまして。4月1日からだいちで勤務しています。出身は愛媛県で、名寄市立大学の入学を機に北海道で過ごし、この度初めて十勝にやってきました。私の好きなジャガイモやスイーツ、自然にあふれている十勝の魅力にどんどんはまってきています。だいちでは生活支援ワーカーとして勤務させていただきます。まだまだわからないことばかりですが、早く皆様のお役に立てるよう努めていきたいと思っております。社会人1年目、精一杯頑張ります。これからよろしくご挨拶いたします。

異動の挨拶

増田 明香

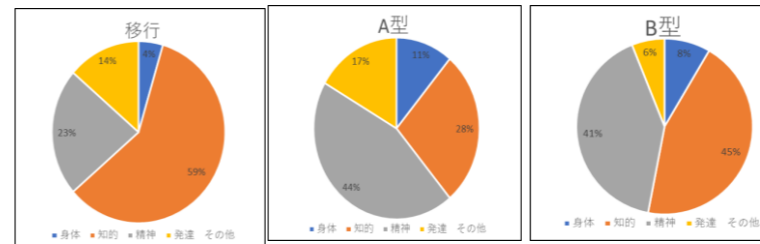
こんにちは。昨年の10月1日付けで帯広生活支援センターとの兼務しております。相談支援専門員として相談して頂く方々が「どのような人生を送りたいのか」を共に考えるお手伝いをさせて頂いております。今後は就労相談も加わりますがこれまでと同様、皆さまが当たり前、生き生きと働く（生活する）お手伝いができるよう、知識や経験を積み重ねていきたいと思っております。不慣れなことばかりですが、早く皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域の関係機関訪問が終了しました！

昨年度は、今の状況下にあっても当センターが出来ることは何かを考え、皆様の様々な状況や地域ニーズを伺い、情報を収集・集約・整理し、地域の皆様へ発信することを目的に、十勝管内の市町村行政・特別支援校・企業・福祉サービス事業所(就労移行・A型・B型・地活)等の関係機関総勢100か所以上の皆様の元を訪問させていただきました。この時期にあえて訪問を受け入れて下さり、ご協力いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。約1年かけての聞き取り訪問を通し、地域の多くの皆様と顔を合わせお話が出来たことで、新たな活動や取組みが生まれ、課題に対して改めて考える機会となりました。

頂いた声を参考に『行政福祉担当者研修会』や『就労移行支援事業所連絡会』『資源マップの新規リニューアル』、遠方の事業所でも参加可能な『リモートを取り入れた研修会』の実施など、様々な活動のアイデアをいただくことが出来ました。今回は、聞き取りの中でいくつかのトピックスをご紹介します。詳しい内容については9月に行う研修にて報告を予定しています。（研修の報告については別紙をご覧ください）

事業所ごとの利用者層 ※就労系事業所のみ



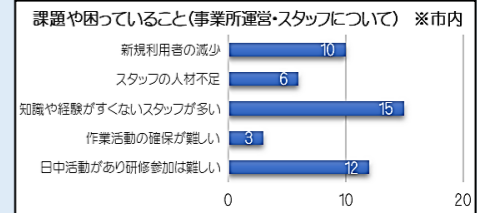
十勝管内の福祉サービス事業所の約80事業所へ訪問しました。
⇒市内51カ所：就労移行…8、A型…10、B型…38、地活…8
町村35カ所：A型…3、B型…28、地活…10
※内訳は多機能型含むため重複あり

A型では主に精神障がいをお持ちの方が多く、就労移行やB型については特別支援校から利用される方が増える等、知的障がいをお持ちの方が多くなっているようです。その中でA型では、精神障がいをお持ちの方が長期的に利用を継続し続け一般就労に結びつきにくい現状が課題として挙げられ、B型に関しては、障がいの重度化や高齢化が見られ、ステップアップを目指す方の数も減っている声が多く聞かれました。

◇各事業所からの聞き取りからは、様々な課題や困り事、地域で求められているニーズ等が挙げられました。
◇現在十勝管内の事業所は、全体総数の半分以上が市内に集中しており、その中で就労移行に関しては、休止中の箇所を除くと市内のみにしかない状況になっています。地域によっては資源がない所もあるため、地域資源の偏りや、選択肢が狭まってしまっている状況は市から離れば離れる程見られる状況が改めて確認できました。

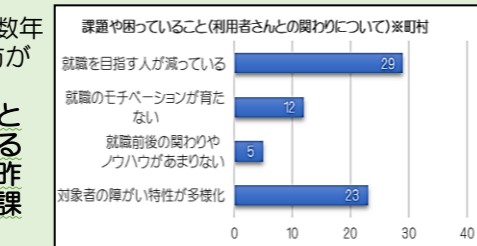
市内

・ここ十数年で市内にかなり事業所数が増え、選択肢も幅広くなっているようです。その中で、相談支援専門員・特別支援校・利用者間同士の紹介から繋がる等、事業所によってその利用経路は異なるものの、中にはその様な紹介経路があまりなく、新規の利用者さんが増えていない声を挙げられる事業所も少なくありませんでした。
・以前と比べ、日中活動を主な目的に通所される方が多くなっているようです。
・事業所数が多くなったからこそ、以前よりも横のつながりを作りづらくなっている状況があり、事業所を越えたスタッフ間交流や、意見交換の場を求める声が多くありました。中には新規に立ち上げられた事業所もあつたため、様々なノウハウを学ぶ機会として、活動の共有を求める機会を必要とされるご意見も伺いました。
⇒市内で挙げられた課題に対し、事業所運営に関してのフォローは行政だけではカバーしきれない部分もあるため、様々な機関との連携が改めて必要と感じました。また、就職に向けたバックアップや個別支援を行っていく中で、更に相談支援事業所との連携や、福祉サービス事業所同士の関わり・ノウハウを共有する場等が必要になると感じました。昨年度はその第1弾として、就労移行を対象とした連絡会の開催に至りました。



町村

・地域ごとに、事業所が数カ所、もしくは1つもない町村もあることから、利用希望をされる方の層が幅広くなっているようです。
・町村に就労移行支援事業所がないため、一般就労を目指す方のフォローをB型や地活が担い、尚且つ手厚い生活支援が必要な方も含め、多岐に渡った関わりを各事業所にて行っている状況があるそうです。
・就労移行がない地域特性や重度・高齢化が見られている状況も多く、市内同様、数年前と比べ一般就労を目指す方より、日中活動を保証する居場所として利用される方が多くなっている状況もあるようです。
⇒以上に関する状況は、町村の行政担当者の方も同じように課題を感じていることが分かりました。地域によって問題意識を持ち事業所等と密な連携を取っている所もあれば、あまり関わりを持たずにいる地域もあり様々でした。そのため、昨年度はまず地域の核となる行政担当者の方を対象に、他の市町村の地域事情や課題等の状況を共有するため『行政福祉担当者研修会』の実施をしました。



地域づくりのニーズについて

・市町村全体を通し、スタッフの人材育成のための研修等を求めている声が多数挙げられましたが、日中は作業活動や送迎等で時間が取れず遠方であることから、参加しづらいというのが実際の現状としてあるため、リモートやDVD等の研修教材の活用を希望する声がありました。
・市内事業所からは、福祉経験が少ない方等も多くなっている現状があるとのことから、基本的な知識を学ぶ内容を求めている声がありました。
・町村からは、大規模の研修会とは別に、地域ごとや周辺エリアの町村とコラボし、小規模で勉強会等が出来ると良いとの声もいくつか挙げられました。
⇒これらの意見も踏まえ、昨年度はコロナ禍の状況や遠方での参加しやすさも加味し、リモートを活用した企画を行ってきました。また昨年度の聞き取りを経て、市内と町村の異なる課題やニーズを踏まえ今後の活動に活かしていきたいと思っております。

